

平成27年度 事業報告書

(平成27年4月1日～平成28年3月31日)

社会福祉法人 清光園

はじめに

平成 27 年度は、「特別養護老人ホーム清光園」開設 40 年という節目の年でした。あらためて清光園 40 年の歴史を振り返り、歴代の理事長をはじめとする役職員のご尽力に敬意を表するところです。また、開設 40 周年式典には、多くの地域関係者にご列席を頂きました。地域の皆様に支えられてこれまで運営できたこと、心より感謝申し上げる次第です。

さて、夕張市の活性化及びコンパクトシティー計画に資することを目的に、新たに創設した「夕張市定住支援制度」ですが、7 名の職員がこの制度を活用されたこと大変うれしく思っております。しかし、その一方で様々な理由から退職する職員も多く、福祉人材の確保、定着は最大の課題となっております。そんな中、本法人の「修学資金貸付制度」を活用し、2 名の高校生が新たに栗山介護学校へ進学することが決まりました。その上、施設内の軽作業アルバイトをしている夕張高校の学生の中からも、卒業後、清光園の修学資金を活用して介護学校へ進みたいという学生が数名いると聞いております。彼らの将来を楽しみにしております。

特養は、長らく目標として掲げてきたユニットリーダー実地研修施設として 1 年目の年でした。平成 27 年度は、20 名の実習生を受入れましたが、実習生を受入れることによって職員は意識的にユニットケアについて思考を働かせることができたのではないかと考えております。これにより、入居者の生活の質が向上されることを望んでおります。

GH は、地域とのつながりを重点課題として、入居者の買い物や美容院などへの外出支援の他、町内会の会合や地域での催し物に参加するなど、入居者が地域で暮らしているという実感が得られるようにサービスに努めてまいりました。また、地域住民の皆さんが認知症に対する正しい理解が得られるように、認知症サポーター養成講座を開催しました。その上で、運営推進会議において地域の方々と連携や連絡体制を明確にしました。これらの取組みが、入居者の安心した暮らしにつながるものと思っております。

デイや共同住宅は、100%近い稼働率を維持することができましたが、居宅は、目標稼働率に達しませんでした。各々の事業所の目指すところは、高齢者が住み慣れた地域や住まいで尊厳ある自立した暮らしがおくれるように支援することです。この視点を忘れることなく支援することが、利用者の満足につながるものと思っております。

これからも清光園が社会福祉の主たる担い手としての役割を果たし、地域住民から信頼と支持を得ることのできる実践の更なる促進、創出の一助となるよう、社会福祉法人としての存在意義を示してまいります。

特別養護老人ホーム清光園
施設長 小田島 英憲

(1) 法人本部

《理事会》

回	期日	主な議決事項	出席者
1	平成 27 年 5 月 15 日 (金)	①役員規程の改正について ②慶弔規程の改正について ③理事長の実務状況報告	理事 5 名 監事 2 名
2	平成 27 年 5 月 22 日 (金)	①平成 26 年度事業報告 ②平成 26 年度決算報告 ③監事監査報告	理事 6 名 監事 1 名
3	平成 27 年 7 月 31 日 (金)	①シルバー共同住宅陽光の料金改定について ②役員の退職慰労金について ③平成 27 年度第一四半期事業報告 ④管理者の異動について ⑤理事長の実務状況報告 ⑥監事監査報告	理事 7 名 監事 2 名
4	平成 27 年 11 月 6 日 (金)	①就業規則の改正について ②特定個人情報取扱規程の策定について ③平成 27 年度上半期事業報告 ④シルバー共同住宅の料金の改定について ⑤賃金控除に関する協定書の締結について ⑥社会福祉法人指導監査について ⑦シルバー共同住宅陽光の立入検査について ⑧理事長の実務状況報告 ⑨監事監査報告	理事 7 名 監事 2 名

5	平成 28 年 1 月 28 日 (木)	<ul style="list-style-type: none"> ①特別養護老人ホーム清光園修繕計画について ②平成 27 年度補正予算について ③理事長の実務状況報告 ④40 周年記念事業報告 ⑤就業規則の変更手続きについて ⑥修学資金の貸付について ⑦平成 28 年度新卒者の採用について ⑧有期契約職員の正職員への登用について ⑨ユニットリーダー研修の実習生受け入れについて ⑩グループホームまどか外部評価について ⑪シルバー共同住宅陽光の立入検査報告について ⑫監事監査報告 	理事 7 名 監事 2 名
6	平成 28 年 3 月 25 日 (金)	<ul style="list-style-type: none"> ①平成 28 年度事業計画について ②平成 28 年度資金収支予算について ③就業規則の一部改正について ④組織・職務分掌規程の一部改正について ⑤理事長の実務状況報告 ⑥社会福祉法の改正について (研修報告) 	理事 7 名 監事 2 名

《評議員会》

回	期日	主な議決事項	出席者
1	平成 27 年 5 月 22 日 (金)	<ul style="list-style-type: none"> ①平成 26 年度事業報告 ②平成 26 年度決算報告 ③監事監査報告 	評議員 13 名 監事 2 名
2	平成 27 年 11 月 6 日 (金)	<ul style="list-style-type: none"> ①平成 27 年度上半期事業報告 	評議員 14 名

		②理事長の実務状況報告 ③監事監査報告	監事 2 名
3	平成 28 年 3 月 25 日 (金)	①平成 28 年度事業計画について ②平成 28 年度資金収支予算について ③理事長の実務状況報告 ④社会福祉法の改正について (研修報告)	評議員 13 名 監事 2 名

《監事監査》

回	期日	主な監査実施項目	出席者
1	平成 27 年 5 月 15 日 (金)	①平成 26 年度各会計決算状況について ②預り金の管理状況について ③会計監査・業務監査	監事 2 名
2	平成 27 年 7 月 31 日 (金)	①平成 27 年 4 月～6 月までの各会計執行状況について ②預り金の管理状況について	監事 2 名
3	平成 27 年 11 月 6 日 (金)	①平成 27 年 7 月～9 月までの各会計執行状況について ②預り金の管理状況について	監事 2 名
4	平成 28 年 1 月 28 日 (木)	①平成 27 年 10 月～12 月までの各会計執行状況について ②預り金の管理状況について	監事 2 名

《社会福祉施設に係る指導監査及び実地指導等》

期日	主な検査項目	出席者
平成 27 年 10 月 15 日 (木)	社会福祉法人指導監査 (夕張市) ①法人運営管理…指摘事項なし ②会計基準…指摘事項なし	理事長 理事 2 名 評議員 2 名

		監事 1 名 施設長 事務員 2 名
平成 27 年 10 月 21 日 (水)	サービス付き高齢者向け住宅事業者等立入検査 指摘事項…3 点 (改善報告済み)	理事長 施設長 相談係長 相談員 2 名
平成 28 年 3 月 4 日 (金)	社会福祉法人指導監査 (書面のみ) ①老人福祉施設運営管理・施設入所者処遇…指摘事項なし	—
平成 28 年 3 月 22 日 (火)	地域密着型サービス事業所 (グループホームまどか) 実地指導…指摘事項なし	理事長 副施設長 管理者 職員 1 名

《その他》

補助金及び助成金	<p>(1) キャリアアップ助成金…194,000 円 (有期契約職員 (2 名) に対する研修費用の助成金)</p> <p>(2) キャリア形成助成金…782,800 円 (正職員 (8 名) に対する研修費用の助成金)</p> <p>(3) 特定求職者雇用開発助成金…750,000 円 (高年齢者 (60 歳以上 65 歳未満) の採用)</p> <p>(4) 社会福祉法人等による利用者負担減免措置事業に係る補助金…1,756,344 円 (低所得で生計が困難であるものに対して、利用者負担を軽減した場合の補助金)</p>
----------	---

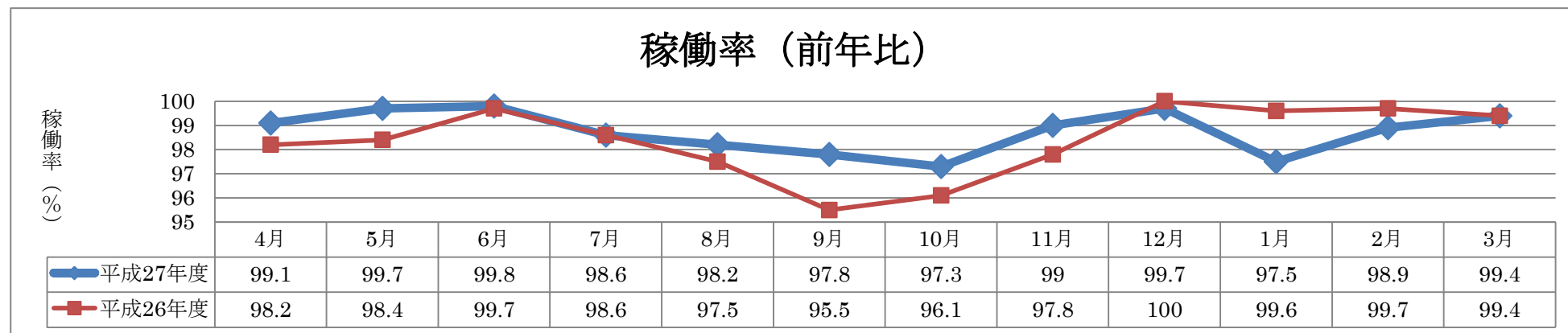
夕張市定住推進支援制度	(1) 夕張市外から夕張市内へ転入した職員…4名 (2) 清水沢地区へ転居した職員…3名
修学資金貸付制度	新規修学資金貸付…2名 (夕張高校1名・苫小牧経済高校1名、いずれも栗山介護学校へ進学)
福祉有償運送事業	利用者数…53名 利用回数…253回 乗車距離…11,966 km (走行距離…15,253 km) 運送収入…1,003 千円
開設 40 周年記念事業	平成 27 年 11 月 1 日 (日) …記念式典・祝賀会の開催 40 周年記念誌の発行
地域貢献活動	(1) 認知症サポーター養成講座 (2) 夕張高等学校インターシップ (介護福祉体験) (3) 地域住民向けの健康教室 (4) 地域住民向けの介護保険講座 (5) ボランティア活動 (6) 施設・備品の貸出 (7) 除雪
研修事業	(1) ユニットリーダー研修実習生受入…20名 (2) 北海道介護福祉学校実習生受入…3名

《資金収支状況と予算達成率》

(単位：円)

	収入の部			支出の部		
事業活動	《介護保険収入》	622,938,255	100.18%	《人件費支出》	382,334,540	97.88%
	《その他の事業収入》	14,981,590	91.38%	《事業費支出》	92,499,664	86.18%
	《経常経費寄付金収入》	1,908,000	219.81%	《事務費支出》	87,065,278	97.60%
	《受取利息配当金収入》	49,974	113.57%	《利用者負担軽減額》	4,468,977	103.97%
	《その他の収入》	8,852,357	124.19%	《支払利息支出》	8,715,194	96.41%
	計	648,730,176	100.38%	計	575,083,653	95.77%
事業活動収支差額			73,646,523			
施設整備等				《設備資金借入金元金償還支出》	42,608,000	100.00%
				《固定資産取得支出》	1,582,200	127.49%
				《その他の施設整備等による支出》	0	0.00%
			計	44,190,200	100.77%	
施設整備等資金収支差額			△44,190,200			
その他の活動				《長期貸付金支出》	1,210,000	100.00%
	《積立資産取崩収入》	6,612,931	—	《積立資産支出》	5,254,265	93.35%
	《拠点区分間繰入金収入》	8,894,000	100.00%	《拠点区分間繰入金支出》	8,894,000	100.00%
	《サービス区分間繰入金収入》	56,300,000	100.00%	《サービス区分間繰入金支出》	56,300,000	100.00%
	計	71,806,931	%	計	71,658,265	99.48%
その他の活動資金収支差額			148,666			
当期資金収支差額合計			29,604,989			
前期末支払資金残高		301,222,880				
当期末支払資金残高		330,827,869				

(2) 特別養護老人ホーム清光園



	目標値	実績	達成率
施設介護料収入	368,366,000 円	360,436,540 円	97.85%
平均稼働率	98.50%	98.75%	100.25%
平均介護度	—	3.75	—

コメント欄（説明者：相談係長 渡辺芳賢）

平成 27 年 4 月より特養の入居条件が原則として要介護 3 となったが、平成 27 年度退去者 18 名に対して、新規入居者も 18 名と制度変更後も問題なく調整する事ができている。各関係機関等との連携により要介護度 3 以上の申込者が 37 名（平成 27 年 3 月 31 日）と安定しており、空室が発生した際も支障なく調整することができた。

また入院による空室が平成 26 年度は 339 日に対し平成 27 年度は 269 日と 70 日空室が少ないのも稼働率向上の要因である。

入居者の退去後、次の入居予定者が入居するまでの日数が 10 日と目標に掲げている 7 日には至らなかった。

（年末年始の為調整の遅れや待機者の状態が不安定な為入居が保留となり次の待機者の入居調整に若干の日数を要した。

平成 27 年度 事業計画ビジョン

重点項目

実践内容（平成 27 年 4 月～平成 28 年 3 月）

理念に基づき、入居者一人ひとりの生活習慣や好みを尊重し、自分の住まいと思えるよう環境を整え、安心してそれまでの自律した生活が継続できるよう支援します。

（1）ユニットケアの推進（説明者：副施設長 佐藤かなみ）

- ・月 1 回一週間をかけユニットリーダーによるユニットケア内部研修を実施
- ・道社協のユニットリーダー研修に施設長、研修受入担当者、ユニットリーダーがオブザーバーとして参加、ユニットリーダー研修の受け入れ施設として研修要綱その他整備し、11 月 9 日から 5 週に渡って 10 名、1 月 25 日からの 3 週で 10 名、計 20 名を受入、他施設のリーダーたちがユニットで高齢者体験を通じて運営計画の実現に向けて取り組んで頂き、振り返り等を活用し改善点を話し合い、交流を深めた。
職員にとっても外部の職員が目があることで緊張感があり、高い意識を持ってケアを行なうことが出来た。
- ・各ユニットで調査票を活用しサービス水準が保たれるよう点検を継続しているが、職員のユニットケアの理解には差があり、フォローアップ内部研修やマニュアル、調査票を活用し聞き取りを行うなどユニットケア推進に努めたが、内部研修は出席者が少なくなかなか現場職員までは浸透しきれなかった。また、調査票の活用も業務に負われなかなか計画通りには実施することが出来なかった。
今後に向けては研修のあり方、内容の見直し等を行い、職員がケアに専念できるよう人の確保や業務適正化を図り改善していく。

（2）入居者本位のサービスの実践と人材育成（説明者：副施設長 佐藤かなみ）

- ・4 月より 24 時間シートのケース記録に他職種共同で支援内容を記録し、個々の生活の見える化を図った。まだ記録時間は短縮できていないが情報を共有し、ケアの統一を図っている。
- ・認知症実践者研修に 3 名、認知症リーダー研修に 1 名参加、現認症リーダーがメンバーとなり、困難ケースについて今年度より会議を開催し、適切なケアにつなげられるよう取り組んだ。認知症リーダーが全員参加することは難しかったが、具体的な事例として困難ケースについて話し合うことで適切な対応策やアンケートを通じて現場の困りごとを把握することができた。
- ・外部講師によるインストラクター要請講座、介護技術基礎講習を開催、各 5 名、計 10 名が受講した。後期、来年度と計画的に受講を継続し質の高い介護職員の育成を図り、アセッサーと共に具体的な OJT ツールを作成し、具体的にレベル評価が出来るようにしていく。
- ・フロア単位でお互い助け合い、連携することで個々の入居者の意向に添い、居酒屋やコンサートなどの外出することが出来た。

・職員に自己評価をしてもらい、個人面談にて目標管理を行ったが、なかなかモチベーションアップにはつながらなかった。
今後に向けては具体的な動機付けになるような研修の実施、会議の小規模化により職員同士意見を言い合える環境づくり、職員一人ひとりの取り組みを評価し、やる気と自信につなげ活気ある職場づくりを目指します。

■各グループ・ユニットの運営報告

A グループ（説明者：主任ユニットリーダー 下村一步）

フロア間で連携し情報共有を図り、徐々にだが思いを実現する事が出来た。知識・技術の向上については課題が残っており、今後も継続し実践していく。

B グループ（説明者：主任ユニットリーダー 下村一步）

ショートステイご利用者に対する生活リハビリについてはうまく実現できていなかったが、送迎やサービス担当者会議に参加する事でご家族のショートステイご利用に対する思いやご利用中の要望等を理解する事ができた。
スタッフの面談を目標にあげたが定期的な実施が出来ておらず 28年度は計画的に面談を実施しスタッフのモチベーションアップに繋げていきたい。

C グループ（説明者：主任ユニットリーダー 佐藤美加子）

24時間ソートの更新やケース記録についての目標については、都度の更新を意識的に行った。接遇に関しては意識的に行ったが、まだまだ不十分などところがある為、今後も継続的にスタッフ同士気付いた所を注意し合える環境構築を努力する。

D グループ（説明者：主任ユニットリーダー 佐藤美加子）

御家族の面会の際に、積極的にコミュニケーションをとることを意識し、近況報告等をおこなうことができた。
退居や新規入居等で入居者のレベルも変わり、コミュニケーションをとる機会も増え、「～がしたい」等声が多く聞かれている為、28年度で思いを形にできるように支援して行く

E グループ（説明者：主任ユニットリーダー 竹田由香）

ユニット会議なので都度接遇に関して確認を行い、入居者がそれなりに満足できるような生活を支援できた。

F グループ（説明者：主任ユニットリーダー 竹田由香）

ユニットケアについて、職員間で意識の差はあるが徐々に理解が深まってきている。基本的に言葉づかいについて適切でない時もあり今後改善につとめていき、小さなことでも入居者さんの思いが実現できるよう他の職種と連携し取り組んでいく。

(3) 地域ケアの実践 (説明者: 相談係長 渡辺芳賢)

- ・地域ケア会議に毎回参加し地域の福祉ニーズの把握に役立っている。
- ・8/1.2に行われる障害者いけまぜ夏フェスタに地域ボランティアとして職員10名が参加、高齢者のみならず障害分野の方々とも交流を図った
- ・小学校の運動会見学に入居者26名参加、運動会準備や後片付けなどボランティアとしても参加、今年度は始めて夕小祭りにも参加し、子供たちの企画したゲームなどに参加し交流を深めた。また、夕張高校生のインターシップを受け入れ、報告会でアドバイザーとしても参加し働くことや福祉教育に一役かった。
- ・老人クラブや南清水沢在宅福祉サービス推進委員会、町内会などの会合や誕生会などの場所提供を継続、地域の高齢者対象に腰痛予防講座、8月27日に「原気体操」「元気水」11月18日に「認知症サポーター講習」など地域の予防高齢者支援の一環として実施した。
- ・また、シンセイカレッジの皆さんの講義会場として地域交流センターを開放、新人歌手や落語、夕張の杜コンサート、大正琴など新しい慰問を受入、地域の方々にも一緒に楽しんでいただく機会を多く設けることが出来た。

(4) 苦情対応とリスクマネジメントの徹底 (説明者: 相談係長 渡辺芳賢)

- ・介護動作ミスにより、入居者の骨折事故が発生した。個々に適した介護動作の確認や事故の共有を行い、再発防止に取り組んだ。次年度も引き続き介護動作ミスによる介護事故0を徹底していく。
- ・個々の入居者の適切なアセスメントを行い、個々に副った安全・安心な介護、福祉用具の導入を行った。
- ・入居者の中で転倒等の危険性が高い方などに関しては、ご家族等にサービス担当者会議等を通して伝えていった。

(5) 施設の有効活用 (稼働率 98.5%) (説明者: 相談係長 渡辺芳賢)

各関係機関と密な情報交換を行うことで、待機者の確保に繋がっている。
平成28年3月末現在の要介護3以上待機者は37名。
平均稼働率 98.75%

(6) 行事・サークル活動 (説明者: 副施設長 佐藤かなみ)

【行事】

- ・4/7 山友会歌謡ショー 4/17 下山民雄歌謡ショー
- ・5/26 札幌篠路西中学校合唱慰問
- ・6/6 小学校の運動会見学 6/18 Jaxonさんと中西敬三さんの慰問

- ・ 7/24 夜店・花火行事
- ・ 8/8 夕張夏祭り、花火大会見学
- ・ 9/4 フィンランド学生との交流会
- ・ 10/17 夕張市全市音楽発表会 文化スポーツセンターにて鑑賞
- ・ 10/28 夕張小学校学習発表会見学
- ・ 11/12 60～70年代 同窓会コンサート 岩見沢市民会館大ホールにて鑑賞
- ・ 11/14 yubari シンセイカレッジ立体きり絵講習に参加（地域交流センター）
- ・ 11/20 ゆう小祭り参加
- ・ 11/26 清水ひろきコンサート （地域交流センター慰問）
- ・ 12/1 清陵保育園慰問
- ・ 12/3 中里 幸道「懐メロ演奏会」 （地域交流センター慰問）
- ・ 12/7 老人福祉会館みんなの集い演芸発表会鑑賞
- ・ 12/12 ファイブピニューミニコンサート （地域交流センター慰問） 1/1
- ・ 12/18 清光園「餅つき」
- ・ 1/1 清光園神社初詣
- ・ 1/31 細川たかし長山洋子～二人のビックショー 岩見沢市民会館大ホールにて鑑賞
- ・ 2/27 落語講演会 （地域交流センター慰問）
- ・ 3/7 コールリラコンサート （地域交流センター慰問）
- ・ 4/13・6/11・8/7・12/10・2/18 ドックセラピー

【サークル活動】

- ・ 映画サークル 毎月第1月曜日開催
- ・ 押し花教室 4/23 6/23 9/29
- ・ 編み物サークル 毎週火曜日
- ・ 音楽サークル 隔週火曜日

- ・料理サークル 6/24 9/19 (ふれ愛まつり焼きプリン出店)
- ・生け花サークル 6/3 9/4 3/22

(7) 研修 (説明者: 副施設長 佐藤かなみ)

【SDS (自己啓発)】

(勉強会)	(実施日)	(講師名)	(参加者)
・ケアマネ受験対策勉強会	6月～9月 毎週1回	小田島 英憲 三ツ井 香菜絵 江莉 豪	竹田 由香 下村 一步 高泉 翔太

【OFF-JT (業務外の教育)】

(研修名)	(実施日)	(講師名)	(参加者数)
・理念研修	4/13～17	施設長 小田島 英憲	52名
・ユニットケアの理念と意義	4/20～23、4/27	チームリーダー 竹田 由香	52名
・薬の勉強会	4/24	アイン薬局夕張店 山形 麻旗 氏	12名
・権利擁護研修～高齢者虐待について～	5/11～15	相談係長 渡邊 芳賢	49名
・特別養護老人ホームの居住空間の変遷とその理念	5/18～22	チームリーダー 山崎 まなみ	35名
・介護技術インストラクター養成研修	5/11・12 6/1・2 6/22・23	日本福祉学院 学院長 山谷 里希子 氏	6名
・心身の仕組みを活かした介護技術の基本研修	5/18・19 6/8・9 6/29・30	日本福祉学院 学院長 山谷 里希子 氏	6名
・認知症研修	6/8～12	副施設長 佐藤 かなみ チームリーダー 山崎 まなみ	41名
・労務管理に関する研修会	6/11	特定社会保険労務士 北島 春雄 氏	13名

・行為から空間を考える	6/15～19	ユニットリーダー 高泉 翔太	35名
・新人研修	6/15～17	施設長・副施設長・看護部長・相談係長・TL	1名
	6/29～30	施設長・副施設長・看護部長・相談係長	1名
・基本マナー内部研修	7/6～10	副施設長 佐藤 かなみ	40名
・労務管理に関する研修	6/11	清光園顧問社労士 北島 春雄 氏	13名
・看取りケア研修	7/13～17	看護部長 松平 壽枝	38名
・運営体制を踏まえた空間構成の検討	7/21～24	ユニットリーダー 渡邊雅史・工藤苑愛	24名
・ユニットケアフォローアップ内部研修	8/3～7	副施設長 佐藤 かなみ	33名
・生活を取り込んだハードやしつらえ	8/17～21	ユニットリーダー 高梨 力昭	28名
・基本介護技術①	8/26	竹田 TL・山崎 TL・高泉 L・高梨 L	6名
・感染予防研修	9/7～9/11	看護部長 松平 壽枝・看護主任 下村 昭子	36名
・ユニットケアの具体的な方法	9/14～18	ユニットリーダー佐久間竜也・西川梨香	17名
・基本介護技術②	9/30	竹田 TL・山崎 TL・高泉 L・西川 L	4名
・リスクマネジメント	10/9～9	相談係長 渡辺 芳賢	40名
・理念研修②	10/13～16	施設長 小田島 英憲	34名
・ユニットケアの留意点	10/19～23	ユニットリーダー 正樹 秀和	36名
・ノロウイルス感染予防について	10/20	看護部長 松平 壽枝	10名
・基本介護技術③	10/28	竹田由香・山崎まなみ	5名
・身体拘束廃止研修	11/9～13	副施設長 佐藤 かなみ	35名
・新人職員フォローアップ研修	12/2・4	副施設長 佐藤 かなみ	4名
・褥瘡に関する研修	12/21～25	看護部長 松平 壽枝	18名
・「暮らしの場」の考え方と施設運営	12/14～18	ユニットリーダー高泉翔太・今野大介	21名
・看取りケア研修②	1/12～15	副施設長 佐藤 かなみ	28名
・ユニットケアを実現するための組織体制	1/18～22	ユニットリーダー 工藤 苑愛	25名
・ユニット運営	2/15～19	ユニットリーダー 高梨 力昭	15名

(8) 会議・ミーティング及び委員会

【衛生委員会】(説明者：相談係長 渡辺芳賢)

- ・年 12 回開催 (月 1 回)
 - ・休業災害発生件数 0 件 (平成 24 年 12 月 8 日から 3 年 4 か月継続中)
 - ・主な活動内容
- ①安全衛生パトロールの実施
 - ②メンタルヘルスに関するセルフチェックの実施 (5 月)
 - ③受動喫煙に関する研修会の開催 (講師：南清水沢診療所 立花 Dr.)
 - ④禁煙デーの実施
 - ⑤健康診断 (年 2 回)
 - ⑥心の健康づくり計画の策定

【研修委員会】(説明者：主任ユニットリーダー 佐藤美加子)

- ・年 3 回開催
 - ・主な活動内容
- ①研修委員会活動計画の策定
 - ②SDS (自己啓発) に関すること～認知症ケア専門士の参考図書購入等
 - ③OFF-JT (業務外の研修) に関すること～研修の企画・研修の参加者の選定
 - ④外部研修報告会の開催

【入所判定委員会】(説明者：相談主任 佐藤宏泰)

4/22 7/17 8/10 11/27 2/29 概ね 3 ヶ月に 1 度開催し、申込者の優先順位を決定する。申込者の優先順位は入所判定指針を用いて一次判定を行い、その後入所判定委員会で討議し入居の必要性の高い方から優先順位が確定する。入所判定委員会の公平性を保つ為に第三者委員 2 名を入所判定委員とし公平性を保っている。平成 28 年度は第三者委員 3 名を入所判定委員としてより公平性を保っていく。

【事故防止・苦情解決委員会】(説明者：相談主任 佐藤宏泰)

4/28、5/26、6/23 7/31 8/25 10/27 11/24 12/22 1/26 3/22 開催。

実際に起きた介護事例の検討を委員会メンバーで行った。またユニット内でのヒヤリハット・事故の共有を意識し各委員会メンバーからユニッ

ト職員へ周知の徹底を行った。
事故・ヒヤリハット件数 134 件。その内社会福祉施設等における事故発生の報告事務取扱要綱により、北海道と保険者に報告した件数は 7 件。
(事故 105 件・ヒヤリハット 29 件)

※ (平成 26 年度事故 167 件・ヒヤリハット 17 件 合計 184 件。北海道と保険者に報告した件数 11 件)

苦情件数 1 件 (ケア内容について)
ケア内容と入居者の状態の共有が連絡不足により共用する事ができていなかった。
今後密にケア内容と状態の共有を行っていくことをご納得される。

【身体拘束廃止委員会】(説明者：相談主任 佐藤宏泰)

6/23：同意を得ての身体拘束なし。
スピーチロックについて、各ユニットの現状把握と防止のポイントと事例について検討。
9/29：同意を得ての身体拘束なし。
各ユニットの現状・不適切ケアの事例について検討
12/22：同意を得ての身体拘束なし。
各ユニットの現状・スピーチロックの弊害・判断基準について
3/22：同意を得ての身体拘束なし。
各ユニットの不適切ケア、行動制限の現状と課題
来年度に向けて引き続き身体拘束「0」継続していくことを確認した。

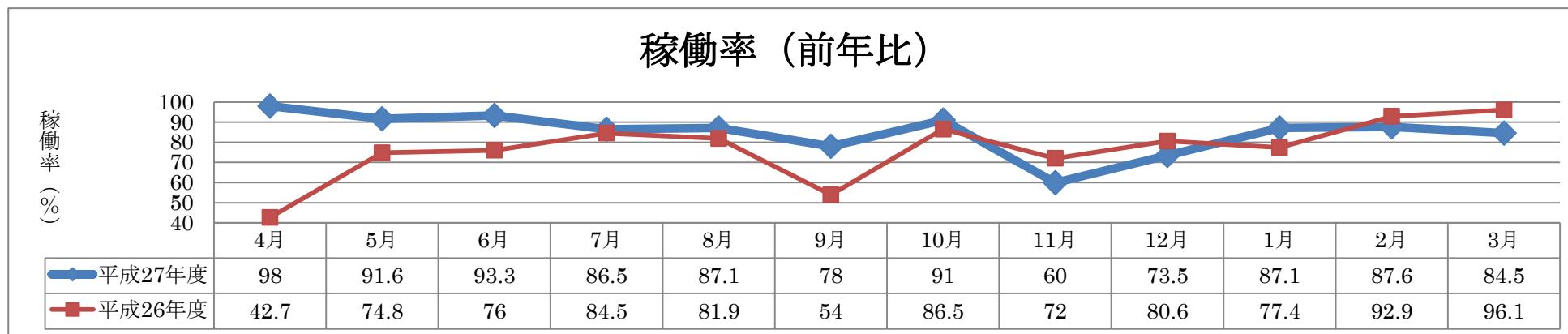
【給食委員会】(説明者：看護部長 松平壽枝)

4/28、5/26、6/23、7/28、8/25、9/29、10/27、11/24、12/22、1/26、2/23、3/22 計 12 回開催。
・ 4/24 寿司行事開催(特養、すずらん)。
特養交流センター、すずらん食堂にて寿司を握る実演をしてもらいながら提供する。
・ 6/16 とりめし弁当を提供、10/27 栗ご飯弁当、1/25 北海弁当(ほたてご飯)、3/25 新幹線開通弁当 (まぐろ漬け丼、かに飯)
使い捨ての弁当箱に盛付け、飲み物には昔駅弁で見掛けたポリ茶瓶を使用し、飲み物を提供。

<p>【感染予防委員会】（説明者：看護部長 松平壽枝）</p> <p>5/13、7/8、9/9、11/11、1/13、3/16 計6回開催。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各ユニットの感染予防取り組み状況について、チェックシートを用いて評価。 ・感染症流行期（食中毒・ノロウイルス・インフルエンザ等）の情報提供と注意喚起、予防対策の確認。 〈今年度食中毒警報12回（30日間）発令。インフルエンザ予防接種は全入居者の他、職員（厨房・美装含む）112名にも実施〉 ・新たな感染症（マーズウイルス・ジカ熱等）情報提供と、感染症標準予防対策の確認。 ・感染症予防対策マニュアルの見直しと改定。
<p>【褥瘡予防改善委員会】（説明者：看護部長 松平壽枝）</p> <p>4/8、6/10、8/12、10/14、12/9、2/10 計6回開催。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各ユニットの褥瘡予防取り組み状況について。 〈2か月毎又は身体状況変化時にブレテンスケールをチェック。予防ケア計画立案と実施状況の評価〉 ・*ブレテンスケール：褥瘡発生リスクを6つの危険因子（知覚・湿潤・活動性・可動性・食事状態・摩擦とズレ）を4段階評価し点数化するスケール ・褥瘡発生事例の対応策について。 〈ケアの具体的工夫と、治癒過程を写真付記録を取り、委員会全体で情報共有を図る〉 ・褥瘡予防マニュアルの見直しと、内部研修（体圧分散・ポジショニング）の実施。
<p>【防災委員会】（説明者：管理係長 佐々木稔）</p> <p>7/14 委員会開催</p> <p>7/17 日中想定火災避難訓練の実施・消火訓練の実施</p> <p>11/13 委員会開催</p> <p>11/20 夜間想定火災避難訓練実施・消火訓練の実施</p> <p>3/11 委員会開催～階段昇降タカの操作指導</p> <p>3/28 自然災害想定訓練～地震発生による停電時の対応 ※グループホームまどかと合同訓練を実施</p>
<p>【看取り介護委員会】（説明者：主任ユニットリーダー 竹田由香）</p> <p>5/20：①平成27年度看取り介護加算改正に伴い確認と周知②看取り介護状況について経過報告</p> <p>高野 Dr 師井 Dr 山形薬剤師 木村歯科医にも参加</p>

		<p>8/19 11/18 2/17 : 看取り介護状況について経過報告 アフター会議や他職種連携の重要性など協議し、年2回の研修も実施し周知を図った。</p>
		<p>【認知症ケア委員会】 (説明者 : GH 管理者 山崎まなみ) 5/14 7/9 9/24 10/8 11/30 12/11 1/14 2/4 3/17</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 認知症ケア会議の目的、重度の認知症利用者の事例検討 ・ 認知症の診断の情報収集を実施…認知症別対応方法の検討に繋げる。 ・ 認知症に関する職員の意識調査を実施…必要な研修等の検討に繋げる。

(3) 清光園短期入所生活介護



	目標値	実績	達成率
居宅介護料収入	13,451,000 円	14,880,874 円	110.63%
平均稼働率	80.00%	85.6%	107.00%
平均介護度	—	2.65	—

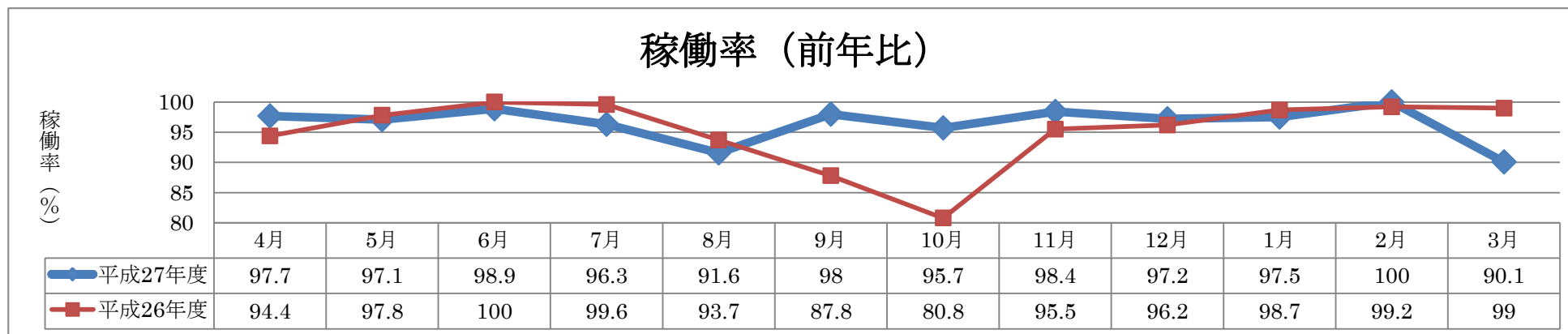
コメント欄（説明者：相談係長 渡辺芳賢）

- ・特養の待機者が短期入所を利用して特養の空室を待つことで、短期入所の稼働率の向上に繋がっている。
- ・現在短期入所を月の半分程度利用されるリピーターも数名確保できていることも要因の一つとである。
- ・特養の入院による空室発生の際、短期入所として空室を利用する事ができており稼働率の向上になっている。

※平成 27 年 11 月は稼働率が 60%と低下した要因は、特養の待機者が短期入所を利用されているが、短期入所から特養への入居された方が 2 名いた為稼働率の低下となる。

平成 27 年度 事業計画ビジョン	
重点項目	
	実践内容（平成 27 年 4 月～平成 28 年 3 月）
理念に基づき、入居者一人ひとりの生活習慣や好みを尊重し、自分の住まいと思えるよう環境を整え、安心してそれまでの自律した生活が継続できるよう支援します。	
(1) ADL,IADL の維持、向上を目的とした機能訓練の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な機能訓練の実地には至らなかったが、需要がある利用者には個別に立ち上がり訓練等行った。 ・生活リハビリに重点をおき次年度は進めていきたい。
(2) 重度者への対応強化	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 27 年 4 月～平成 28 年 3 月までの間、重度者の受け入れ対応はないが、今後重点項目通り胃ろうや褥瘡等の重度者への受け入れを積極的に行っていく為、各居宅介護支援事業所と連携を図っていく。
(3) 稼働率 80%以上	<ul style="list-style-type: none"> ・各居宅介護支援事業所等と連携を行い、平成 27 年 4 月～平成 28 年 3 月までの新規短期利用者は 22 名獲得した。 ・空室発生時は各居宅介護支援事業所に空室の情報を行い、利用に繋げることができた。 ・緊急短期利用等も積極的に受け入れる事で、各居宅介護支援事業との信頼関係の構築にも務めることができた。 ・稼働率 85.6%

(4) グループホームまどか



	目標値	実績	達成率
地域密着型介護料収入	58,881,000 円	58,192,250 円	98.83%
平均稼働率	98.00%	96.54%	98.51%
平均介護度	—	2.66	—

コメント欄（説明者：GH 管理者 鈴木聡・山崎まなみ）

今年度、入院者 8 名、他施設転居 2 名、永眠 1 名、新規利用者 4 名、3 月現在の待機者は 6 名となっている。昨年度に比べ入院者が 8 名と多く空室がショートステイ利用に繋がらなかったことで今年度目標の稼働率 98%を下回った。

要因として長期入院中、特養相談員、各事業所へショート利用依頼し 4 件ほど相談があり CMと自宅へ訪問、本人、家族とも日時調整するも利用へは繋がらなかったこと。

平成 27 年度 事業計画ビジョン

重点項目

実践内容（平成 27 年 10 月～3 月）

「あるがまま」「思いのまま」に…美味しく、楽しく、よく笑い…出会った縁（円）を大切に…なじみの場所で穏やかに…いままでの「当たり前」な生活を送ります。

（1）個別ケアの推進

- ・入居者と一緒に調理、掃除、洗濯干し、畑仕舞い等、入居者が少しずつではあるが生活の継続できるようになった。
- ・外出支援、気軽にホーム周辺の散歩、冬期間も美容室、スーパー、コンビニ、ホームセンターなど公用車にて継続して行った。
- ・パーソナルスペースの確保、個々の過ごしやすい場所、空間の確保により一緒にコーヒーを飲んだりする時間が多くなった。

（2）地域コミュニティの形成

- ・12～1 月は、清陵保育園児によるお遊戯、1 月はしし舞、幌南太鼓をまどかで披露していただき、入居者も大変喜ばれていた。また、町内のドンド焼きにも参加、3 月は宮前町内会会合へも参加し地域住民とも交流を深めることができた。
- ・27 年度運営推進会議全 6 回の開催
 - 第 1 回：5/27～事業報告と現状報告
 - 第 2 回：7/29～運営方針について（管理者変更）
 - 第 3 回：9/30～事故報告、避難訓練について
 - 第 4 回：11/18～認知症サポーター講習開催
 - 第 5 回：1/27～外部評価について
 - 第 6 回：3/30～実地指導報告、自衛消防訓練について

（3）チームケアの確立

- ・入居者の身体状況等、関係機関と連携を図り訪問診療、専門医への診察など日々の情報提供により速やかに対応することができた。
- ・緊急入院、退院者への対応（訪問看護、診療所との連携、1・2 号棟協力し緊急時の対応ができた）

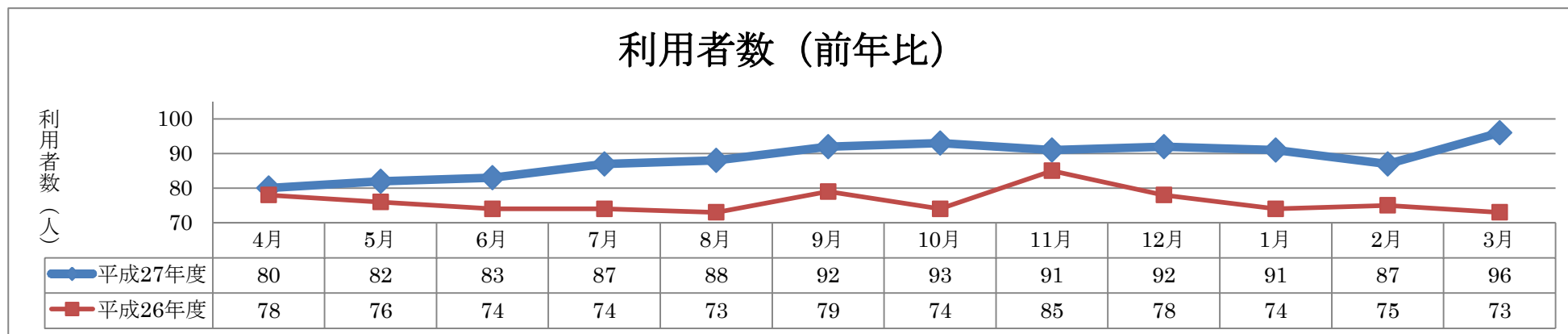
(4) リスクマネジメントの徹底

- ・認知症サポーター講習をまどかにて開催し運営推進委員をはじめご家族、地域の方々にも参加していただき認知症についての理解を深めることができた。
- ・所在不明者緊急マニュアルを整備し関係機関との連絡も明確化され、より速やかな対応ができるようになった。
- ・3月は骨折事故により1名が入院された。日々の生活状況、身体状況の変化に気付き、リスクのある入居者には家族へ報告、担当者会議、ユニット会議を実施し事故防止へ取り組んだ。

(5) 稼働率 98%以上

4月稼働率～97.7% (入院者3名・新規入居1名) (他施設転居1名)
5月稼働率～97.1% (入院者なし・新規入居1名) (他施設転居1名)
6月稼働率～98.8% (入院者3名・新規入居1名) (他施設転居1名)
7月稼働率～96.3% (入院者1名・新規入居0名) (永眠1名)
8月稼働率～91.6% (入院者1名・新規入居2名) (他施設転居1名)
9月稼働率～98% (入院者1名・新規入居0名) (他施設転居0名)
10月稼働率～95.7% (入院者1名・新規入居0名) (他施設転居0名)
11月稼働率～98.4% (入院者0名・新規入居0名) (他施設転居0名)
12月稼働率～97.2% (入院者1名・新規入居0名) (他施設転居0名)
1月稼働率～97.5% (入院者0名・新規入居0名) (他施設転居0名)
2月稼働率～100% (入院者0名・新規入居0名) (他施設転居0名)
3月稼働率～90.1% (入院者2名・新規入居0名) (他施設転居0名)
27年度平均稼働率 96.5%

(5) 清光園居宅介護支援事業所



	目標値	実績	達成率
居宅介護支援介護料収入	13,462,000 円	14,035,980 円	104.26%
利用者数	1,080 人	1,062 人	98.3%

コメント欄（説明者：居宅管理者 佐藤克美）

4月より3名体制に変更。新規52名の利用者あり。徐々に増加見られ9月利用者数目標の90名を達成する。2月老健の越冬入居、入院者激増し90名を下回る。利用者数平均90名は未達も、加算等により介護料収入の目標達成する。入院47名、施設入居12名、死亡5名、サービス利用終了、なし12名。

平成 27 年度 事業計画ビジョン

重点項目

実践内容（平成 27 年 4 月～平成 28 年 3 月）

清光園居宅介護支援事業所における事業の適正な運営確保するために、人員及び管理運営に関する事項を定め、事業所の介護支援専門員が居宅において要介護状態または要支援状態にある高齢者に対し、適切な介護支援及び居宅サービス計画を提供します。

(1) 利用者が可能な限り居宅において、その有する能力に応じ自立した日常生活を営むことができるよう配慮していきます。

本人、家族の意向を確認し、在宅生活が継続できるよう介護サービスを適正に計画し、介護保険サービス事業者との連絡調整により、利用者・家族の負担にならないように支援しました。また、継続的な身体状況等の評価を行い、次回サービス計画に反映できるように努めました。

(2) 利用者の心身の状態や置かれている環境等に応じて、利用者の選択に基づき、適切な保健医療サービスが、多様な事業所から、総合的かつ効果的に提供されるよう配慮して行ないます。

月 1 回のモニタリング訪問、サービス担当者会議開催時に本人、家族、他事業所とサービス内容について適切に実施されているかの確認を行いました。

(3) 利用者の意思及び人格を尊重し、常に利用者の立場に立って、提供する居宅サービス等が特定の種類または特定のサービス提供事業所に不当に偏ることがないように、公平中立に行います。

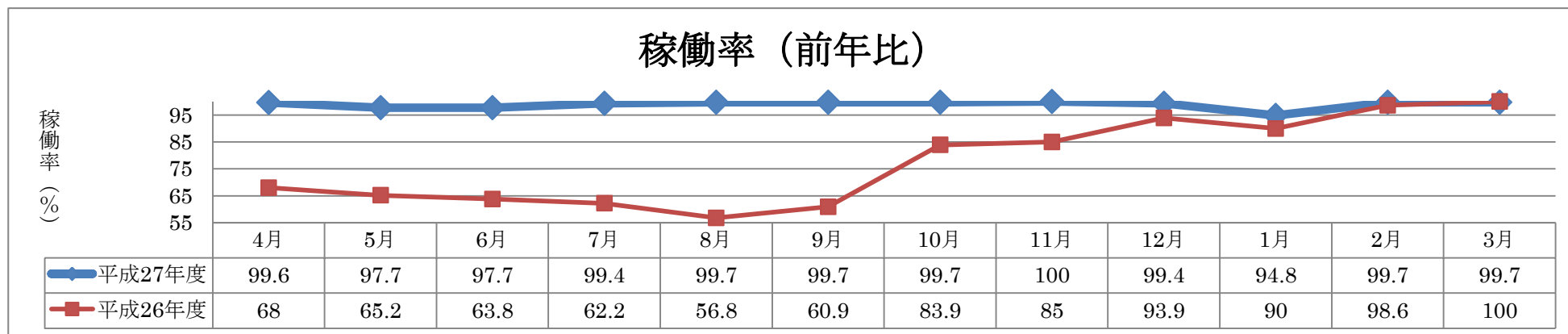
契約時に重要事項説明書等で事業方針や本人・家族にサービス事業所のサービス概要を説明し、選択していただいている。

(4) 市町村、地域包括支援センター、他の居宅介護支援事業所、介護保険施設との連携に努めます。

市直営の地域包括支援センターのため行政としての対応依頼も含め、週 1 回程度の相談・助言を随時受けている。他ケアマネとの地域の動向や制度等の情報交換。老健、特養の入居や退去後の在宅支援の調整について連携を密に行っています。

(5) 相談窓口としての立場の確立	<p>介護認定の手続き、介護事業所の内容や利用方法、地域包括支援センターからの新規の依頼、退院後の在宅介護、介護保険施設入居等について 55 件の相談あり、真摯に対応できた。担当ケースや他利用者相談について清光園相談員と情報の共有を定期的に行っている。給付管理に至らない事例 25 件。医療訪問看護の紹介、専門病棟の受診を勧める。移送サービスの手配、住宅改修、福祉用具購入の調整、要介護認定更新代行申請、地域包括支援センターから情報提供のあった要介護者の訪問について対応しました。</p>
(6) 不安が安心になる対応	<p>夕張市の支援サービス、配食サービス、宅配サービスを必要時に利用者、家族等に社会資源の情報提供しました。</p>
(7) 介護支援専門員としての姿勢	<p>研修計画に基づき計画的に実施。研修報告については定例会議にて報告する。内部研修 5 回、外部研修 10 回、地域ケア会議 8 回出席。</p>
(8) 内部での情報共有	<p>担当ケースに変化があった場合は都度 3 名のケアマネで情報を共有する。4 月～特定事業所加算Ⅲの算定要件である検討会議他を概ね 1 週間に 1 回以上開催し記録を残す。法人事業所の居宅担当年間稼働状況。GH まどか入居 1 名。すずらん 45.9%、清光園ショートステイ 23.3%。</p>

(6) デイサービスセンターすずらん



	目標値	実績	達成率
居宅介護料収入	20,153,000 円	21,157,034 円	104.98%
平均稼働率	98.00%	98.92%	100.93%

コメント欄（説明者：デイ管理者 小川弘平）

- ・常時 1 日 10 名の利用者の登録をしており、キャンセルに関しても、振替利用の推進や食事会の実施等によって、利用を確保する事が出来た。

平成 27 年度 事業計画ビジョン

重点項目

実践内容（平成 27 年 4 月～平成 28 年 3 月）

利用者がいつまでも在宅生活が継続できるようにサービスの資質向上に努めます。

(1) 在宅生活の継続支援

- ・通常のデイの利用だけではなく、自宅における施設や簡単な外出の準備等の実施を希望に応じて行っている。他サービスとの兼ね合いもあるが、今後も柔軟に対応していく。
また買い物の支援も行っており、利用後に最寄のスーパーに寄り食材の購入支援をしており需要も高まっている。
- ・カラオケ等行える複合機による様々な体操プログラムの取り入れ、実施。またカクヤや音楽観賞する事も出来、楽しみに繋がっている。

(2) サービスの付加価値、差別化、利用者の獲得

- ・すずらん畑に関しては、畑を見る事を目的に来る方もおり、食事会の実施にも繋がっていく為、今後も規模を拡大して実施する。短時間利用の相談も増えており、午後からの利用者や食事前からの利用者等柔軟に獲得する事が出来た。

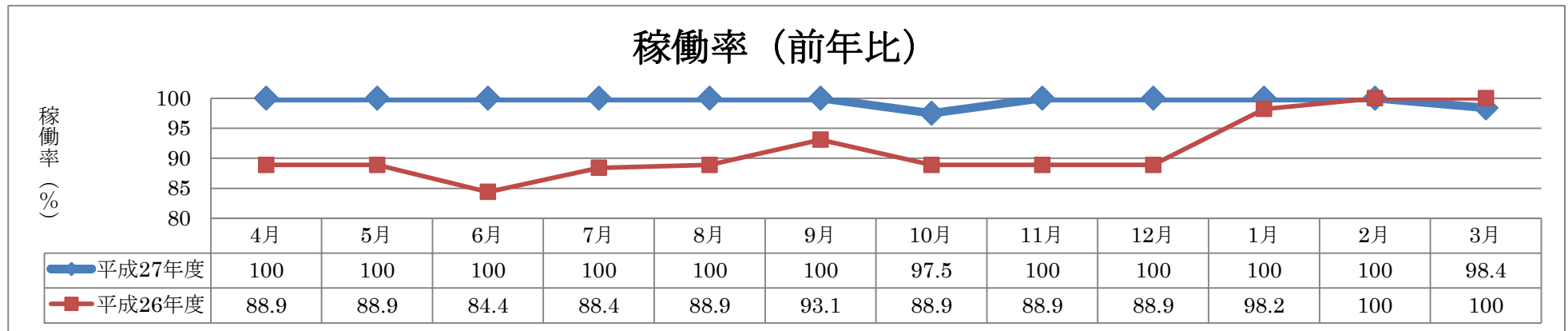
(3) 地域支援

- ・陽光の入居者の生活トラブルに関しては、第一の窓口としてスタッフが対応している。
すずらんで行事（食事会、ドッグセラピー、太鼓等）を行う際には、陽光入居者にも参加いただいている。

(4) 稼働率 98%以上

- ・1日10名の登録者を確保しており、突発的な体調不良等による利用キャンセルに対しては、利用振替等を促す等をして稼働の維持を図っている。
またキャンセル者が多く発生した日に関しては、すずらん農園の野菜等を使用した食事会を実施し、利用を促し楽しんでいただいている。

(7) シルバー共同住宅陽光



	目 標 値	実 績	達 成 率
事業収入	16,394,000 円	14,981,590 円	91.38%
平均稼働率	100.00%	99.6%	99.86%

コメント欄（説明者：相談係長 渡辺芳賢）

平成 27 年 4 月～平成 28 年 3 月までの間に退去者は 2 名で平均稼働率は 99.6%。

平成 27 年 10 月に 1 名と平成 28 年 3 月に 1 名の退去があり、目標値である平均稼働率 100%に達することができなかった。

また、入居者で 2 名の方が食事のキャンセルをされている為、事業収入の目標値を下回る要因にもなった。

※平成 28 年 1 月より住戸部分の光熱水費の徴収を開始した。(3,000 円)

※現在申込者 5 名確保。

平成 27 年度 事業計画ビジョン

重点項目

実践内容（平成 27 年 4 月～平成 28 年 3 月）

要介護状態になっても安心して住み続けられる住まいを目指します。

- ・地域包括ケアシステムにおいてのサ高住の期待される役割を担っていく。

(1) 安否確認・生活相談

・安否確認や入居者の生活相談（代行申請等も含む）を行った。今後も幅広い範囲での生活相談を受け、要介護状態になっても安心して住み続けられる住まいを目指していく。

(2) 食事サービス

平成 27 年 8 月 7 日にバーベキューを開催、入居者はジンギスカンや魚を美味しく食され食後はカラオケを楽しまれた。
次年度も嗜好調査を行い食事会等開催していく。

(3) 環境整備

・以前入居者から要望のあった陽光の敷地内の砂利道を一部舗装に改修した。
入居者からは歩きやすくなったとの声が聞かれる。
・サービス付き高齢者向け住宅に係る立入検査の改善指導に伴い、全住戸の玄関とトイレに手すりの設置を行った。
設置後は歩行に不安のある方は、「手すりがあると便利だわ」との声が聞かれた。

(4) 地域や人とのつながり

・入居者の方で入居以前から若菜にある老人福祉会館に行かれていたが、陽光入居後も移送サービス等を利用して、老人福祉会館に行くことができ地域とのつながりをもつ事ができている。今後も地域とのつながりや住民同士のつながりを構築していきたい。